

中学校家庭科関係学習指導要領改変に伴う 指導上の一考察 (第2報)

A Consideration on The Improved Course of Study of Home Economics in Junior High School in Japan.

(昭和39年10月1日 受理)

酒 井 桃 香
(Momoka Sakai)

村 田 京 子
(Kyoko Murata)

家 族 関 係 に つ い て

About family relationship

1. Purpose

We concluded in the last report that we should teach technical home economics in relation with the family relationship in junior high school. In this paper we should like to report the contents and the teaching method of technical home economics in connection with the family relationship.

2. Procedure

(i) We investigated the family relationship in seven kinds of text books for girls junior high school.

(ii) We investigated the family relationship in the course of study of moral education and its text books for girl's junior high school.

3. Conclusion

(i) We got the materials of the family relationship from six teachers in Fukuoka, Saga, and Kumamoto prefectures.

(ii) We report the contents of technical home economics in related with the family relationship which we teach in three years course.

(iii) We report two kinds of guidance method.

緒 言

さきに紀要Ⅱ第1報において、昭和37年度より全面移行した、中学校技術・家庭科の内容としては職業家庭科においては、大きな分野であった家族が省かれている。しかしこの技術・家庭科の指導については留意事項として、(1)題目の与え方。(2)目標の確認。(3)単元に対する知識理解の徹底。(4)態度の育成(協力、根気、愛情)。(5)技術の練磨。(6)知識の応用。(7)学校の学習を家庭へ転移すること。技術・家庭科ならびに家庭科の内容においては家族に対する愛情を育成し、それを家庭に直ちに生かすことができるものがたくさんあるので、社会科の家族に関する指導のみに家族関係を任せることなく、家庭科は家庭科独自の立場において指導をしてゆく必要がある。指導の内容の扱い方、指導法については後述すると結んだり。今回は内容、指導法について研究を発表する。

研 究 経 過

技術・家庭科に家族の分野を省いた理由は社会科で扱うので、重複を避けたと文部省の関係者はいったが、中学校社会科の指導要領でどのように扱われているかを述べる。

第 1 目 標

1. 自他の人格や個性を尊重することが社会生活の基本であることについての理解をいっそう深め、又民主主義の諸原則を理解させ、これを日常の生活に正しく生かしていく態度や能力を養う。
2. 人間生活と自然との関係、地域相互の関係を考えさせ、人々の生活には地域によって特色があることや、その底には共通な人間性が流れていることを理解させ、広い視野に立って、郷土や国土に対する愛情を育てる。

3. われわれの社会生活は長い歴史的経過をたどって今日に及んでいることを理解させ、歴史の発展における個人や集団の役割を考えさせ、良い伝統の継承や社会生活の進歩に対する責任感を養う。
4. 家族、村落、都市、国家その他の社会集団、ならびにわが国の政治、経済の機構や機能を理解させると共に、わが国が当面している諸問題に着目させ、社会生活に適応し、さらにこれを改善していこうとする積極的な態度や能力を養う。
5. 世界におけるわが国の立場を正しく理解させ、国民としての自覚を高め、民主的で文化的な国家を建設して、世界の平和と人類の福祉に貢献しようとする態度を養う。

以上の目標の各項目は、相互に密接な関連をもって、全体として社会科の目標をなすものであり、主として2, 3又は4のいずれかにかかわる指導においても、常に5をあわせ考慮する必要がある、さらにすべての指導の根底に、(1)を考慮しておかなければならない。

第2 各学年の目標および内容

中学校社会科の目標を達成するために、1学年では地理的分野について、2学年では歴史的分野について、3学年では政治、経済、社会的分野について、それぞれ学習させることを原則とする。

上記のように3年において政治、経済、社会的分野において学習させることが原則となっている²⁾。

このように社会科では3年生で社会的分野にふくめて家族生活が扱われるようになっている。では中学校社会科のある教科書にどのように家族について書かれているかを記載する。

中学社会3巻

私たちと家族生活

生まれると共に家庭で育てられ、私達の生活は家族を中心として動いているのである。この家族生活は愛情と

理解に満ちていることが幸福の条件である。

1. 家族のはたらき
 - ・家族のしくみ
 - (1) 家族
 - (2) 家族生活
 - (3) 小家族と大家族
 - ・家族のはたらき
 - (1) 休息の場
 - (2) 子弟の養護教育
 - (3) 人間の性格をつくる
 - (4) 経済生活の基盤
2. 新しい家族生活
 - ・古い家と新しい家
 - (1) 家族制度
 - (2) 家長の権利
 - (3) 新しい憲法の立場
 - ・家庭の民主化
 - (1) 今も残る古い家庭
 - (2) 農村の実情
 - (3) 改善への道³⁾

上記のように3年生において指導するようになっているが、温い人間関係をつくりだすためには、やはり社会科や道徳の時間のみに任せず、教師、生徒と親しく触れあう場をもつ家庭科において、家庭科の独自の立場から、1年生の時から、良い家族関係を醸成できるように計画したいものである。それでは技術・家庭科においては、教科書に家族に関してどのように扱われているかを述べる。発行所7社の技術・家庭科の教科書について家族に関する記載内容をしらべてみたが、表1、表2のとおりである⁴⁾。

これによっても、わかるよう1年生の教科書にはほとんど家族と関係のある内容がなく、2, 3巻にわずかに記載されているのみである。

表 1 1 巻

家族に関連ある記載事項なし

表 2 2 巻

出版名社	単 元	小 単 元	頁 数
A	家 族 の 食 事	家 族 の 栄 養 食 生 活 の 設 計 調 理 実 習	P69~77 P78~83 P84~108
B	家族の日常食の調理	献 調 理 実 立 食 物 と 生 活	P 3~19 P20~64 P64~80
C	調 理・家族の食事	献 立 練習と調理実習 献 立 練習と調理実習 献 立 練習と調理実習 献 立 練習と調理実習 献 立 練習と調理実習 献 立 練習と調理実習 献 立 練習と調理実習 献 立 練習と調理実習 献 立 練習と調理実習 献 立 練習と調理実習	P 6~14 P15~30 P31~39 P40~55 P56~58

出版名社	単 元	小 単 元	頁 数
D	調 理	家族の献立作成 家族の栄養 家族の構成と献立 家族の食品群別摂取量の目安 献立と家庭経済 食品と季節 献立	P 3~6 P 6~7 P 7 P 7~13 P13~15 P15~22
E	調 理	家族の食物 家族の献立	P 7~10 P10~11
F	調 理・家族の食物	家族の食物 家族の献立	P 2~5 P12~18 P23, 26, 30
G	家族の日常食の調理	家族の献立 家族の1日の献立 家族の食品群別摂取量と盛りつけ 調理と台所 家族の1日の献立 収入の低い家族 家族のだんらん 創意を生かす 家族皆の喜び	P12 P15 P25 P46 P77 P78 P80

表 3 3 巻

出版社名	単 元	小 単 元	頁 数
A	客 ぜ ん の 調 理 消化のよい食物	客ぜんや家庭行事にふさわしい献立 幼児の栄養 老人の栄養 病人の栄養	P 4 P115~116 P117 P118~120
B	調 理	老人の栄養と食事 病人の栄養と食事 幼児の栄養と食事 家庭における行事の意義 特別調理について 特別調理の献立作成 行事食・客ぜん調理と生活	P 3~8 P 8~10 P11~13 P27~28 P28 P29 P54~56
C	調 理	幼児の食事 老人の食事 病人の食事 行事食と客ぜん食 例4 正月の調理 食生活の改善	P 6~8 P11~12 P16~17 P22 P37 P49~50
D	調 理	食生活の改善 幼児食の献立と調理 老人食の献立と調理 病人食の献立と調理 行事食、客ぜん食の献立と調理	P 3~5 P 7~10 P15~16 P19~20 P25~27
E	調 理	幼児の食物 老人の食物 病人の食物 食生活の改善 食事形式	P 7~12 P12 P16 P56, 57
F	調 理	幼児の食事 老人の食事 病人の食事 行事食・客ぜん食の食事 食生活の改善	P 2~8 P 8~11 P11~14 P14 P51, 53, 54, 55
G	消化のよい食物 行事食・客ぜん食の調理	幼児の食事の献立と調理 老人の食事の献立と調理 病人の食事の献立と調理 行事食・客ぜん食の献立と調理 食物と生活	P 7~10 P15~19 P24~25 P29 P52, 53, 54

表 4 食 物

[illegible]

表 5 被 服

項 目 年	小 単 元	内 容	指 導 上 の 留 意 点
一 年 生	ブラウス構成の基本	<ul style="list-style-type: none"> ブラウス構成の各布名 前後身頃の縫製と袖、 衿付 	<ul style="list-style-type: none"> 年令別によるデザインの考え、型について考えさせる。 例えば、妹さんは衿は大きく、お母さんの衿は小さく。 ダーツやタックの位置と体型について理解させる。 作業に応じたデザインについて理解させる。 袖ぐりについて 例 運動服、お母さんの家庭着
	ブラウスとスカートの着方	<ul style="list-style-type: none"> ブラウスとスカートの着方 	<ul style="list-style-type: none"> 若い人達の着方 ブラウスをスカートの下に入れることについて お母様、おばあ様の着方はオーバーブラウスが多い、その理由等 ブラウスの布地と裾の始末について、特にスカートの布地の薄いもののブラウスの裾の始末
	ブラウスに適した繊維、布地、糸	<ul style="list-style-type: none"> 繊維の種類 新しい繊維 布地選択時の注意 	<ul style="list-style-type: none"> 使用目的を考えて選ぶ能力を養う。 自分達の通学着と家庭着 お母様の家庭着 季節に応じたものを理解させる。 体型や好みにあったものを選ぶ能力を養う。 自分のもの、妹のもの、老人のもの。 価格の適当なものを理解させる。 製作するのに容易なものを理解させる。 購入に際しては、家族の人達に相談する態度を養う。
	被服整理	被服の保管	<p>スカート製作・毛糸編物等も上記のような家族に関係つけた指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 被服をなおす場合、自分の家の家族構成上から、なおす場所や、なおし方を指導すると共に、被服の整理に協力する態度を養う。 幼児や老人がいる場合、その人達の被服の保管のあり方について考えさせる。 衣類の保存中の防かび、防虫には、清潔、乾燥及び防虫剤の使用などが必要であることを理解させる。 <p>(生徒に今までの経験を発表させて、それをもとにして学習をすすめるようにする。)</p> <ul style="list-style-type: none"> 使用後の出し入れ、保管に便利な衣類の分類法を考えさせる。 衣類のしまい方と容器について指導する。
	裁縫ミシンの取り扱い	<p>せんたくについて しみぬき 保 管</p> <p>裁縫ミシンの種類と各部の名称 ミシン操作の準備 操作の仕方 ミシンかけの練習 ミシンの手入れ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 家族の一員として進んで被服整理に参加する態度と基礎的知識を理解させる。 家族の者の簡単なつくりいに参加させるなど、中学生として明るい家庭作りに積極性を示すよう啓蒙する。
	電気アイロンの取り扱い	電気アイロンの種類 特 長 使い方	<ul style="list-style-type: none"> 電気アイロンの正しい使い方を理解し、自分のものはもとより、家族の者の服装の手入れにすすんで参加する態度を養う。
	電気洗濯機の手入れ	電気洗濯機の種類 特 長 使い方	<ul style="list-style-type: none"> 主婦の仕事と家事の能率化について 電気洗濯機を取り扱う危険をともなう事例について話し合いをさせる。 家族の一員として生活改善の意義を理解させる。

表 6 食 物

項 目 年	小 単 元	内 容	指 導 上 の 留 意 点
二 年 生	家族の献立作成 調理実習 { ちらし ししゅう 菊花 豆腐 果汁 寒天 }	家族の栄養 家族の構成と献立との関係 食物費と家庭経済 季節と食品 家族の献立作成 父の1日の献立 家族の1日の献立 味つけ すし飯の炊き方 合酢の割り合いと量 具の煮方、ませ方、だし のとり方、調味、豆腐 の切り方、寒天と水の割合	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の構成状況や食事の摂取量などを発表し、性別、年齢別、労働強度別により、栄養所要量は異なることを知る。 ・家族の構成は年齢や職業によって異なるため献立作成に特に注意することを理解する。 ・一家の主婦は家庭経済に苦心していることを知らせ、家計に協力する態度を養う。 ・食物のしゅんを調べ、しゅんのものを好みに合わせて、献立に盛りこんでいくようにする。 ・家族の生活に合せ、献立を工夫するため家族の嗜好を調べたり、主婦の外出時の調理をうけもつたり、生徒が食生活に進んで働くよう留意する。 ・家族の食事を通して生活を明るく営む態度を養う。 ・父の1日の献立例から、食品の配分のしかたを理解させる。 ・各自、父の1日の献立を作成する。 ・父の1日の献立を基にして、生徒の家族のとり各食品の量を算出し理解させる。 ・食品群別摂取量のめやすを基にして家族の摂取量比を算出させる。 ・父の1日の献立を家族の1日の献立に発表させ、栄養、経済面を考慮しながら指導する。 ・食べる対象者によって、味が異なることを知った上で、自分の家族構成員から誰にでもあつた味つけをするにはどのような工夫をしたら良いか研究させる。 ・家族の好みを考えて料理し、皆が喜んで食べるように出来るように指導する。 { 御飯のたき方 具の切り方 酢加減 } { 味加減 寒天の甘味 }

表 7 被 服

項 目 年	小 単 元	内 容	指 導 上 の 留 意 点
一 年 生	し し しゅう 毛糸編物 休養着の製作 ミシン分解 組み立て整備	図案の工夫 基礎ししゅうの種類と特長 デザイン ししゅう 単衣長着女物の製作	<ul style="list-style-type: none"> ・うるおいのある家庭生活を営ませる。 ・既製品を使用する画一的な被服生活に装飾を兼ねて、心のこもった、更に短時間をも、利用しようとする態度を養う。 ・幼児のポケット、ズボンなどにアップリケを既製ブラウスにししゅうをすることによって母親の温い愛情がこもることを知らせ、温い家庭生活の喜びを認識させる。 ・家庭の装飾品や家族の服飾に役立ち、家庭をゆたかにする態度を養う。 ・簡単なししゅうのさし方の実物や示範を見て実習する。 ・図案と配色を考えさせ指導する。 ・家族のものの長着、その他裁縫できるものを製作するよう指導する。 ・家族のものの衣類をたたんだり、整理したりする態度を養う。 ・家族のものの衣類をたたんだり、整理したりする態度を養う。 ・家庭でミシンの故障がきた場合、人の手をわずらわさずに自分で修理する態度を養う。 ・ミシンの掃除、油さし、整備については自分が責任をもち、主婦の労働が軽減されるよう指導する。

表 8 住 居

項 学 目	小 単 元	内 容	指 導 上 の 留 意 点
二 年 生	台所と熱源	よい台所	・よい台所は主婦の労働を軽くし、又余暇を生むことを知らせ、協力するよう指導する。
	家具類の修理		・家具の修理の仕方を学び、生活を快適に進める技術を習得し、物を愛護する態度を身につけ、家族の精神生活をなごやかにするよう指導する。
	刃物の手入れ		・調理準備に協力するよう指導する。

表 9 食 物

項 学 目	小 単 元	内 容	指 導 上 の 留 意 点
三 年 生	食生活の改善	食生活の実態 食生活の改善がおくれる原因 これからの食生活改善の方向	<ul style="list-style-type: none"> ・三学年の学習目標を食生活の改善におくことを知らせる。 ・民主的な家庭生活のあり方（従来の我國の家族制度のあり方の…）個人の尊重と食生活の関係を理解させる。 ・家族構成について、味覚の点でも最近変化が多く、年令層で満足する分野が違っている。 ・生活の合理化と共に食生活の合理化をすすめる事を知らせる。 ・性別、年令別の生徒の家族構成員について考えさせ、その状態の中に於いて楽しい食事にする正しい食生活の理解をさせる。 ・生産技術の進歩により、加工食品の増加食事形態の変化を知らせ、合理的な食生活を理解させる。
	行事食、客ぜん食の献立と調理	食事と社会性 農繁期の炊事 テーブルマナーのあらまし 行事食、客ぜん食のあり方	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の相違と食事の社会性を理解させる。 ・食事は親しみを増すもの、社会性を育てるのに大切なもの。 ・栄養的に和合に、会食のあり方に。 ・お互に楽しい食事をするには、ルールを知り、そして行うことの大切なことを指導する。 ・自分達の家の年中行事を調べさせ、調理に関係あるものをあげさせる。 ・行事の種類を知らせ、行事食の意義を考えさせる。 ・手作り料理の特色を知らせる。 ・従来の行事食、客ぜん食の短所を知り、改善して行こうとする態度を養う。 ・家族の者が自分の能力に応じて協力することを理解させる。 ・家族全部で形より心をこめて、おもてなしをし、自分達も共に楽しむ。 ・こうした学習を通して家族愛（兄弟愛）家族愛、病人、幼児へのいたわりを養う。
	調理実習 母の誕生祝 くわい飯 茶わんむし 源平なます 病人食の献立と調理	行事食、客ぜん食のための食器 蒸し物の特徴 煮出し汁と卵の割合 中身の処理の仕方 蒸す温度と時間 蒸し器の種類 病人食の献立と調理 病人の食器	<ul style="list-style-type: none"> ・我國の食生活が複雑化し、日本料理の他、中華料理、西洋料理とあり、これらの食器を各家庭でひとつひとつそろえることは容易ではない。この点から考えて、客ぜんの為のみの食器でなく、家族の一員としてむかえる客のもてなし方、質より心の食器について考えさせる。 ・母の誕生日を祝い、母に日頃の感謝の念をあらわしながら、家族全員で楽しい夕食を味合うような調理の指導をする。 ・病人の特異性を考え、栄養の配合、味加減、盛り方、器などに特に細かく心を用いるよう指導する。 ・食器の清潔感、食物の温度などに非常に敏感であり、食慾不振なことが多いので、食慾をそそるような食器などを用いることも大切であり、又病人なので消毒しやすい食器であることなど指導し、病人の食事をさせることによって家族のつながりはどうか等を考えさせる。

幼児食の献立と調理	幼児食の献立と調理 よい食事の与え方 幼児の食器	<ul style="list-style-type: none"> ・心身の発達と栄養、家族の温かい思いやり、食事の回数など指導する。 ・色彩やデザインが美しく、安定感があり楽しい食事ができるような食器が望ましいことであり、家族間にうるおいを与えるものであることを指導する。
老人食の献立 調理実習 <ul style="list-style-type: none"> ぎせい豆腐 ふろふき 大根 調理	豆腐の栄養と調理法 卵の蛋白質の凝固を利用したものである。 大根の種類 ほう丁の使い方 切り方の工夫 易消化食の調理実習 <ul style="list-style-type: none"> かゆ おもゆ 半熟卵 野菜とかつお節のスープ 	<ul style="list-style-type: none"> ・身体的にも精神的にも温かい心づかいをもって消化が良いように栄養のことも考えて愛情を持って調理をするように指導する。 ・易消化食は幼児の離乳食や病人食として大切なものであり、この作り方によって子供の成長が促進し、又病人の快復も早い、子供や病人の好みをよくわきまえて調理をし、このことを学ぶことを通して家族の和を尊ぶことを考えさせる。

表 10 被 服

項 学 年	小 単 元	内 容	指 導 上 の 留 意 点
三 年 生	ワンピース ドレス 被服の整理 ローケツ染	組みたて 布地、補正 セーター、マフラーの せんたく 住いを楽しく、 仕事の手順	<ul style="list-style-type: none"> ・年令による体の形についての特徴又活動分野の違いなどによる1人1人の服装の正しいあり方について考えさせる。 ・よごれの点検とよごさない着方について指導する。家族のものまで手伝うように努めさせる。 ・自分の手で楽しい家庭のフニイキを作るように考えさせ、ローケツ染をする際の布地や染料、図案なども、室内にマッチしたものなどを選ぶようにし、室内を美しく、楽しくするように工夫させる。

表 11 育 児

項 学 年	小 単 元	内 容	指 導 上 の 留 意 点
三 年 生	幼児の発育	保育の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい保育の技術によって、幼い子供達が健康に育っていくようにつとめることは家庭の重大な使命であることを知らせる。 ・保育は母親1人の努力だけでなく、家族全員の愛情と理解と技術によって助けられる。故に家族の1員である生徒は母親を助け、弟や妹を健全に育てるため、おしあず協力出来るよう学ばせる。
	幼児の成長	幼児の心身の発達 (1) 幼児期の特徴 身体の発達 精神の発達	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭はもちろん、近隣の人々や、知人、親戚等の社会の人々とのつながりは1番早くて、効果のあるのは、幼児を通じてである。 ・生徒の身近かな乳幼児の観察から発育状態の変化を発表させる。 ・精神と肉体の構成される大切な時であり一生のスタートといえる。暖かい思いやりで慎重にあたねばならない。 ・幼児は抵抗力に乏しくすべてが他動的に支配される。栄養、睡眠、しつけ、衣服は全て大人のなすまま環境のあるままに支配されこれを基礎として自我が生まれ遊びとして発達する。このことを知って生徒が協力するように指導する。 ・心身の発達については個人差があることを知らせる。
	幼児の生活としつけ	食事のしつけ 睡眠のしつけ 用便のしつけ 着衣のしつけ 清潔のしつけ	<ul style="list-style-type: none"> ・家族皆の協力と助けが必要であることを知らせ、自分の立場を考え、自覚しなければならぬことを特に注意して指導する。
	乳幼児の食物	乳幼児の栄養	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の健康 ・乳児の骨格とその特徴 ・離乳食の必要性 <p>理解させる。</p>

幼児の間食	間食の意義 間食の与え方 種類, 回数 時間, 栄養と消化 偏食	・幼児の栄養と間食の関係を理解させ, 間食の製作技術を習得させる。
幼児の被服	幼児服の条件 地質, 着せ方, 形 年令と衣服	・幼児の良い被服の条件を理解させる。

表 12 住 居

項 目 学 年	小 単 元	内 容	指 導 上 の 留 意 点
三 年 生	すまいの改善	よい住い	・すまいは家族が休息し, 眠り, だんらんし, そして, 明日も又元気に働くための力を養う場所である。このことを頭において, 住いを批判し, 考えてみる。

教科指導をする際に一番大切なことは, 学習指導案をいかによく書くかということである。ここに食物関係, 被服関係について, いかに学族関係と関連づけて指導するかを考えながら書いた学習指導案を発表し, 指導の参考の一端にしたいと思う。表13, 表14, 表15, 表16, 表

17のとおりである。

以上技術・家庭科の女子向きの指導のねらいとしては各場で家族と関連づけて指導し, よき家庭生活への建設のための努力をなし, 又両親にそのための協力をなし得る人材の育成を心がけたいものである。

表 13 中学一年 技術・家庭科(食物)指導案

指導者

㊦

1. 単 元 献 立
2. 要 旨 中学一年であるので, まず身近かな自分達の食事のことを考えさせて, 青少年期に於て必要な栄養素, 栄養素の働き, 栄養所要量などを理解させ, それらの栄養素がどの食品に含まれているかを知らせ, この時共に自分の家族の人達は自分達と栄養量などにおいて, どう違うかなどを理解させる。これら色々のことを知って青少年向きの献立を作成させる。
3. 目 標
 1. 青少年期に於ける栄養所要量を理解させると共に, 家族の人達の栄養所要量も理解させる。
 2. 栄養素の働き, その栄養素を含む食品を理解させる。
 3. 献立作成上の必要事項を理解させる。
4. 指導計画 総時間数 5時間
 - 私たちの栄養…………… 1 (本時)
 - 食品の栄養的特質…………… 1
 - 青少年期の食品群別摂取量の目安…………… 1
 - 青少年向きの献立…………… 2
5. 本 時 昭和39年10月14日 水曜日 第4時限 1年1組に於て
6. 題 目 私たちの栄養
7. 主 眼
 1. 食物の必要性を理解させる。
 2. 青少年期に必要な栄養素, 栄養所要量を理解させる。
 3. 家族の人と自分達の必要栄養素, 栄養所要量の差を理解させる。
8. 準 備 教師 教科書, 指導案, 表(I, II, III) ピクチャーフード
生徒 教科書, ノート

9. 指導過程

	学 習 要 項	指 導 内 容	指 導 上 の 留 意 点	配時
導 入	1. 私たちの栄養食物について	<ul style="list-style-type: none"> 食物は何のために食べているかを発問し、答えさせる。 食物には栄養素が含まれていることを再確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が答えたものを、5ヶ条ぐらゐにまとめて板書する。 <p>身体の維持 〃 成長 活動力の増強</p> <p>栄養（食物）が必要である。</p>	5分
展	青少年期の必要な栄養素 青少年期の栄養所要量	<ul style="list-style-type: none"> P 2～3 読ませる。 生徒の年齢（青少年期）に必要な栄養素を理解させる。 これらの栄養素が体内でどのような働きをするのか理解させる。 P 3～4 読ませる。 これらの必要な栄養素が1日にどれだけの量、必要であるかを理解させる。 栄養所要量という言葉を理解させる。 1. 青少年期に於ける栄養所要量 青少年期は特にのびざかりであり、年々体位向上はめざましい。これらのことから栄養を充分にとる必要があることを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校でどの程度、学んでいるか復習をする。 表Ⅰで説明する。 生徒にノートに写すように指導する。 <p>栄養所要量</p> <p>年 令 性 別 生活状態</p> <p>などで異なる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 表Ⅱで説明する。 表Ⅲで説明する。 栄養素の量的なことだけでなく質的なことも理解させる。 例 動物性蛋白質と植物性蛋白質の比較 	15分
開	家族の人達の栄養所要量	(2) 家族構成を生徒に発問し 父母 (30～40才) } の家庭 祖母 (70才) 妹 (3才) を例にとって、これらの人達の栄養所要量を説明する。そして、生徒自身と比較させる。	<ul style="list-style-type: none"> 表Ⅲで説明する。 皆で話し合いをさせ、生徒の家庭では、どのようにしているかを発表してもらう。 ピクチャーフードを使用して調理法の変化による出来上りの食品について理解させる。 日本料理、西洋料理、中華料理の方法によってでてくる違いなど。 	25分
整 理	本時学習したことを整理する。	<ul style="list-style-type: none"> 本時の復習をする。 次の食品と栄養的特質の所を読んでくるように言う。 		5分

表 14 参 考 表

〔表Ⅰ〕

炭水化物	鉄……………血となる。
脂 肪	ビタミン類
たんぱく質……………血、肉となる。	ビタミン B ₁
無 機 質	〃 B ₂
カルシウム	〃 C
り ん	〃 D
	〃 A

…エネルギー源となる。

…体内の生理作用を調節する。

〔表 II〕 日本人年令別・性別栄養所要量

年 令	熱 量 (Cal)	たんば く 質 (g)	カルシ ウム (g)	鉄 (mg)	食 塩 (g)	ビタミンA (I. U)	ビタミ ン B ₁ (mg)	ビタミ ン B ₂ (mg)	ナ イ アシン (mg)	ビタミ ン C (mg)	ビタミ ン D (I. U)
— 男 —											
3～5	1550	50	0.4	8	5	1200(3600)	0.7	0.7	7	45	400
12～14	2500	95(100)	0.9	12	12	2000(6000)	1.2	1.2	12	80	400
20～29	2500	70	0.6	10	15	2000(6000)	1.3	1.3	13	65	400
40～49	2400	70	0.6	10	15	2000(6000)	1.3	1.3	13	65	400
70～	1850	60	0.6	10	15	2000(6000)	1.3	1.3	13	65	400
— 女 —											
3～5	1400	45	0.4	8	5	1200(3600)	0.7	0.7	7	40	400
12～14	2400	85(95)	0.8	12	12	2000(6000)	1.1	1.1	11	75	400
20～29	2100	60	0.6	10	15	2000(6000)	1.1	1.1	11	60	400
40～49	1950	60	0.6	10	15	2000(6000)	1.1	1.1	11	60	400
70～	1550	50	0.6	10	15	2000(6000)	1.1	1.1	11	60	400

〔表 III〕 国民平均体位基準表

新					旧				
年 令	身 長(cm)		体 重(kg)		身 長(cm)		体 重(kg)		年 令
	男	女	男	女	男	女	男	女	
12 才	142	142	34.0	36.0	138	140	32.0	33.5	12 才
13 才	147	147	38.5	40.0	144	144	36.5	38.5	13 才
14 才	152	150	43.5	43.5	152	148	43.5	42.0	14 才

〔「新しく採用された日本人の栄養所要量」厚生省栄養課〕

表 15 中学1年技術家庭科（被服）指導案

指導者

㊦

- 単 元 ブラウスの製作
- 要 旨 日常着として身近かなものであるブラウスの製作をとりあげ、ブラウスを製作することによって、被服製作の技術の基礎的なことを学ばせて、着用者の年令、体格着用目的に適した型、色、柄、布地の関係などについて指導して、ミシンの扱い方にも慣れさせ、生徒に自分で製作し、完成させるという習慣と喜びを味わせ、自分で被服を製作しようとする意欲をもつように指導する。
- 目 標
 - ブラウスの選び方について理解させる（型、色、柄、布地などの関係）
 - ブラウス製作の順序と縫い方を指導し、被服製作の技術の基礎的なことを理解させる。
 - 着用上の注意を理解させる。
- 指導計画 総時間数 16時間
 - 第一次 製作計画
 - ブラウス構成の基本
ブラウスに適した繊維、布地、糸 } …… 1（本時）
 - ブラウスの型の選び方と工夫
用具、機械 } …… 1
 - 採 寸
型紙の選び方と補正
用布の積り方 } …… 2
 - 第二次 製 作 …… 11
 - 第三次 学習の整理 …… 1
- 本 時 昭和39年10月15日 第3時限 1年1組に於て。
- 本時の題目 ブラウス構成の基本とブラウスに適した繊維、布地、糸について。

7. 本時の主眼 1. ブラウス構成の基本を理解させる。
 2. ブラウスを色々に変化をつけて着用し、楽しむことを理解させる。
 3. ブラウスに適した繊維、布地、糸を理解させる。
8. 準備 教師 教科書、指導案、ブラウス実物標本、布、ブラウスの裁断したもの、ピン、表（布地と針、糸の関係）
 生徒 教科書、ノート
9. 指導過程

	学 習 要 項	指 導 内 容	指 導 上 の 留 意 点	配時
導 入		・生徒に今までブラウスを製作したことがあるかどうか発問し答えさせる。	・ブラウスだけでなく、今までに被服製作をしたことがあるかどうかを知る。	5 分
展 示	1. ブラウス構成の基本	P52～53読ませる。 ・日常着として最も親しまれているブラウスがどのような構成になっているか理解させる。 ・ブラウスの変化のつけ方 (1) ブラウスに変化をつける。 生徒に家族の人（祖母、母）のブラウスの型と自分達のとどう違うか発表させる。 (2) ブラウスの着方によって変化をつける。 ・アンダーブラウス ・オーバーブラウス ・ブラウスとスカートの組合せ	・身頃、衿、袖を板書する。生徒自身も自分の着用しているブラウスを参考にしながら理解する。 ・身頃、衿、袖の裁ったものを用意しピンでとめ、簡単にブラウスをつくる。 ダーツやタックも実際にやってみる。 ・袖、衿などによって変化をつける。これらは年代によって変ってくる。 ・例 妹…衿は大きい。 母…衿は小さい。 ・例 ①ブラウスをスカートの下に入れるか、上にだすか、流行もあり、今年はオーバーブラウスが多いようである。 ② 母や祖母はオーバーブラウス、それもゆったりしたものが多いが、これは何故か。	20分
開 展	2. ブラウスに適した繊維、布地、糸	P53～55読ませる。 ・布地について。 中学生として適当な布地、日常着としての布地を理解させる。 ・布地を選ぶ時の注意を理解させる。 ①～⑥ 生徒達の年代のことだけでなく、家族の人達の場合もともに考え、理解させる。 ・日常着のブラウスは木綿のものが良いことを理解させる。 ・縫い糸、針と布地の関係を理解させる。	・幾種かの布地を用意し、生徒に見せる。 ・①～⑥を1項目ずつ板書しながら生徒に理解させる。 ①使用目的を考える。 ②季節に応じたもの。 ③自分の体型、好みにあったもの。 ④価格の適当なもの。 ⑤型によくあったもの。 ⑥製作が容易なもの。 ・ポプリン、ギンガム、デニム、ブロード。・最近多いテトロンなどの化学繊維のことにもふれる。アイロンがいらずに便利である。 ・地質と糸、針、縫い目の関係を表にして説明する。	20分
整 理		・復習する。 ・自分で製作するブラウスの型、布などを考えておくように言う。	・母や妹等のブラウスの型も考えてあげるような態度を育成する。	5 分

家庭で子供達に手伝いを頼んだ時に、いうこと聞かないことがよくある。その場合親は子供は中学生になってからなまいきになっていうことを聞かなくなったという。ではどうしていうことを聞けなかったかということについて考えてみる。

親から家の手伝いを頼まれた時にいうことを聞かなかった理由として次のような結果がでている。

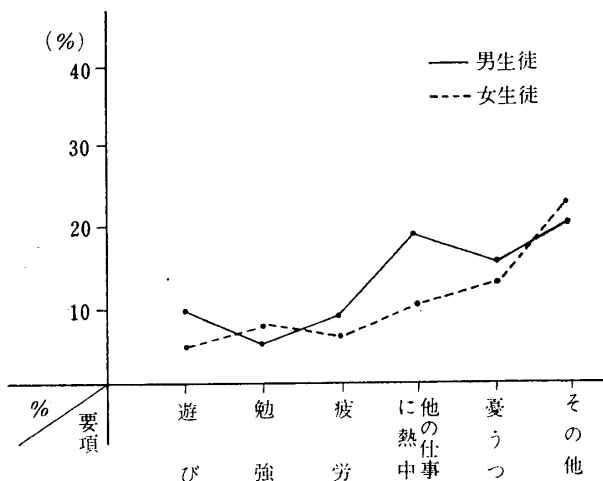
調査項目は次のようである。

1. 遊びが面白くていうことを聞かなかった。
2. 勉強が忙しくていうことを聞かなかった。

3. つかれているからいうことを聞かなかった。
4. 面白いこと（ラジオ工作など）に夢中になっていうことを聞かなかった。
5. 気分がくさくさしていることを聞かなかった。
6. その他

調査した結果は Fig. 1 のとおりである。

Fig. 1 お手伝い拒否の内容



これを考えてみるのに、子供は家の手伝いをしたくないからしないのではない。それより他の方に気をひかれていて意欲がそちらへむかない。そのために親のいうことを聞かなかったといえる。しかし家庭では度々このことがくりかえされている。親は子供の心理的狀態を考えて用事をいいつけ、家事に協力させることが大切だと考える。そうすることによって家族生活について協力態勢が生じてくるのではあるまいか。又、中学生の不良化の原因について考えてみると次のようなことがいえる。

非行を呈する少年のパーソナリティには色々な要因が大きな役割を演じている。これは本人の素質と生活環境と身体的及び先天的精神的遺伝と後天的な生活環境によって、問題行動をなす者が多い。

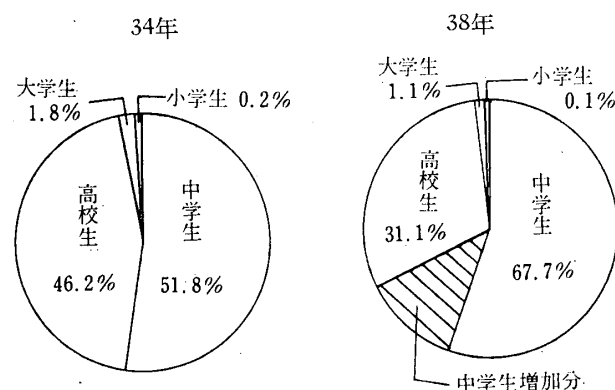
その原因は複雑に遺伝の影響、身体的原因、精神的原因、環境的要因等、種々あげられるが、それらの相関如何によって、正常な人生をわたる者もでき、問題行動をおこす人もできるのである。

1. 学業不良にして劣等感から校内への不適応を示し、学校生活に対する意欲を持ち得ない。
2. 友人関係では悪い環境条件に育っているボス的な友人に引きづられてその仲間にはいり、集団をぬけきらずにいる。

3. 家族関係に問題がある。家庭内に統一がなく、家族内の人倫関係や母親の教育的実権の強い場合に問題が起りやすい。
4. 勿論、その他子供の出生の秘密、生育歴、居所の転々、経済的な問題、愛情の欠如、家庭構成等問題がある。

福岡県における学生生徒事件別表（34年，38年）をみると次の Fig. 2 のようである。

Fig. 2



私達人間は、家庭に生れ、家庭に育つ、その家庭は先ず子供が体験するはじめての社会生活であり、ここにおいて愛されて育つ子供達は豊かな心情をもち、将来又人を愛することのできる温い人間が育成されやすい。私達は和やかな豊かな心情の持主になるために、楽しい家庭生活がおくれる人を育成するために青年期において、家族関係に関心をよせさせいいフニキを周囲に醸成できる人間の育成を目指して、進むべきである。そのためには中学校技術・家庭科においても、扱い方としては家族を離れてはいけな。

いい家族生活を育み得る人を育成するためにも、これは必要であると思いこの稿を草した。

参 考 文 献

- 1) 中村栄養短期大学紀要 2 巻.
- 2) 中学校学習指導要領社会科.
- 3) 中学校社会科教科書.
- 4) 三省堂, 学研書籍, 学校図書, 実教出版, 教育出版, 開隆堂, 実業之日本社出版の女子用技術, 家庭科教科書.
- 5) 研究紀要第七集: 横浜市における子どもたちと環境, 1957年横浜市教育研究所.
- 6) 青少年の不良化防止に関する基礎的研究, 昭和37年3月, 大阪府教育研究所.
- 7) 福岡県家庭裁判所資料.